

第14回全道少年（U-10）8人制サッカー大会北北海道大会

準決勝・決勝 戦評

＜準決勝＞ 愛国ビクトリー（釧路地区） VS FC中標津（根室地区）

1-3（0-2, 1-1）

予選から接戦をものにし、チーム力で勝ち上がってきた愛国と、前評判の高かったチームを破って勢いに乗る中標津との準決勝。愛国のキックオフで試合が始まる。

試合序盤から⑩を起点にボールを動かす愛国。固いディフェンスでしっかりとボールをはね返す中標津。最初にチャンスをつかんだのは中標津。3分、中標津は⑤が右サイドをドリブル突破しシュートを放つ。更に、⑤→⑩とボールをつなぎ、最後は④がシュートを打つも枠を外れる。5分、中標津はCKのチャンスに、⑤の蹴ったボールを⑥がしっかりと頭で合わせ先制のゴールを決める。



勢いに乗った中標津は、その後も⑤のドリブルからチャンスを作る。愛国も、DF⑤の攻撃参加から相手ゴールに迫るも、中標津DF陣の速い体の寄せにフィニッシュまで至らない。10分、中標津は、右サイドに流れた⑩から⑤にパスが通り、⑤がきれいにボレーで合わせて追加点を奪う。その後も中標津の攻撃が続くが、愛国DF陣の必死の守りとGKの攻守備で前半を終了する。

後半に入り、愛国は⑩のドリブル突破からチャンスを作る。1分、右サイドにいた⑤のセンタリングを、ゴール左側でいいポジションを取っていた⑪が落ち着いて決め1-2とする。この得点で、流れが愛国に傾くかと思われた3分、中標津はドリブル突破から相手のファールを誘った⑤が、ゴール正面17mのフリーキックを直接決め3-1とする。運動量の落ちた試合中盤は、やや蹴り合いの展開が続いたが、愛国の攻撃に対し、中標津は⑥の的確な判断でゴールを許さない。更に試合終盤、中標津は、⑤、④、⑩を中心にボールをつなぎチャンスを作る。愛国も最後まで相手ゴールに迫る粘りを見せるが、ゴールを奪うことができないまま試合終了のホイッスルが鳴る。



この準決勝、互いに集中力を切らさず、最後まで粘り強くプレーを続けた姿が印象に残った。惜しくも敗れた愛国だが、ベンチを含めチーム全体で戦う姿が印象に残った。今後の活躍を期待したい。

（文責 十勝少年サッカー連盟 喜多）

<準決勝> 高台サッカースポーツ少年団（旭川地区） V S 旭川 Grin・Bear・Boys FC A
（旭川地区）

1 - 2 (0 - 1, 1 - 0, 延長0 - 1, 0 - 0)

強豪エスピーダをPKで破り波に乗る高台と、これまで順調に勝ち上がってきた旭川GBBとの準決勝。お互いに手の内を知る旭川勢同士の試合となった。

試合はGBBのキックオフで始まる。試合序盤から⑩、⑦、⑤を中心にボールを支配し、高台ゴールに迫るGBBは4分、相手陣内中央でボールを受けた⑩が、巧みなドリブルで抜け出し、最後は相手GKをかわして先制ゴールを決める。勢いに乗るGBB

は、その後もピッチを広く使い攻撃を仕掛ける。高台もサイド攻撃からチャンスを作るが、GBB守備陣を崩すことができない。10分、GBBは、⑥→⑩→⑤とつなぎシュートを放つも、相手GKに阻まれ追加点は奪えない。



後半に入っても前半の勢いそのままに、GBBが最初のシュートを打つが、高台はその直後のカウンターから相手ゴール前で②→⑦とつなぎ同点ゴールを決める。同点に追いつかれたGBBは、その後も相手ゴールに迫るが、高台の固い守備陣を崩すことができない。一方高台も、しっかりとした守備からカウンターを狙うが、なかなか相手ゴールに迫ることができない。前後半では決着がつかず、試合は延長戦に入る。

延長前半1分、GBBは左サイドでチャンスを作り、⑨、⑥と続けざまにシュートを打つも高台DFにブロックされる。が、その跳ね返りを⑩が左足で強烈なシュートを決め2-1と勝ち越す。高台は右サイドをドリブルで突破した⑩のセンターリングに②が合わせるが、シュートは惜しくもバーの上へ。後半に入っても、両チームの運動量は落ちずに白熱した試合となる。高台の裏を狙ったロングボールもGBB守備陣がしっかりとね返す。追加点を狙うGBBは、⑩のシュートがポストに当たるシーンもあったが、試合はこのまま終了する。



旭川勢同士ということで両チームとも負けられない戦いとなったわけだが、最後までGBBを苦しめた高台のメンバーの気持ちの入ったプレーが印象に残った試合となった。

（文責 十勝少年サッカー連盟 藤田）

<決勝> FC中標津 VS 旭川 Grin・Bear・Boys FC A

4-0 (2-0, 2-0)



攻撃的なサッカーで勝ち進んできた両チーム。ドリブル突破から多くの得点シーンを作ってきた中標津か、ピッチを広く使い全員がボールに関わりながら相手ゴールに迫るGBBか、お互い初優勝をかけての戦いとなった決勝戦。両チームの大応援団はじめ、すでに試合を終えたチームの選手たち、大会関係者が見守る中、GBBのキックオフで試合が始まった。

試合の立ち上がりはGBBペースで進む。試合開始直後から中標津ゴールに迫り、CKからもチャンスをつかむ。が、4分、中標津はGBBの一瞬のすきを突く。左サイドでボールを受けた⑤がドリブル突破を図る。途中バランスを崩しかけたものの抜群のボディバランスでシュートを放つ。GBBのGKも良く反応したが、はじいたところを④がしっかりと詰め、中標津が先制点を奪う。GBBとしては、押し気味で試合を進めていた中、相手の⑤のドリブルは警戒していただけに、ゲームプラン含めて痛い時間帯での失点となる。同点に追いつきたいGBBは、⑥、⑨、⑩にボールを集め攻撃を仕かけるが、出足の良くなった中標津にインターセプトされる場面が続く。何とかピッチを広く使いたいGBBだが、サイドでボールを保持しても、素早く体を寄せる相手選手に囲まれ、自由にプレーすることができない。前半終了間際、DF間でボールをつないでいたGBBのボールを奪った中標津⑤が、落ち着いてゴールへ流し込み2-0とする。



後半に入っても、中標津の勢いは止まらない。2分、相手の判断ミスを見逃さなかった⑤が相手ゴール前でボールを奪い追加点を奪う。どんな時にも集中力を切らさず、相手ゴールを狙う⑤の活躍はこの試合でも目立っていた。どうしても1点が欲しいGBBだが、縦への攻撃が多くなり、ことごとく中標津DF陣にはね返される。また、ボールを保持しても、全く運動量が衰えない中標津にボールを奪われることが多くなる。10分、GBBのパスをはね返したボールに絡んだ⑤が再び追加点を決める。4-0、FC中標津に歓喜

の初優勝の瞬間が訪れる。

見事な戦いぶりで初優勝を飾ったFC中標津。⑤のドリブル突破だけでなく、チームとしてボールを奪う意識の高さ、何より圧倒的な運動量は圧巻だった。対外試合など、決して地域的にはサッカー環境に恵まれない根室地区代表チームの優勝は、長く北海道のサッカーに関わっている一人として心から拍手を送りたい。

一方、惜しくも敗れた旭川GBBであったが、準決勝までの広くピッチを使ったプレー、縦に急ぐことなくゆったりとした攻撃を目



指す姿勢、声かけなどは、多くの指導者の参考になったはずである。残念ながら決勝戦は、G B Bの持ち味や良さが消されてしまった形になったが、この悔しさを糧に今後更に成長してくれることを期待している。



最後になるが、この大会地元である十勝地区の代表が最終日に残ることができなかったのは、十勝少年サッカーに関わる者として非常に残念な結果ではあったが、そのような中、最終日も設営、撤収作業に協力していただいた帯広中央FC、開西つつじが丘J r. FCの後援会、並びに関係者の皆さんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(文責 十勝少年サッカー連盟 喜多)

